

琉球・沖縄
年中行事?なんでも!
Q&Aヒラウコーにお線香、
どこでつけますか?

●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

Q

先月、祖父の法事のときに
お線香を台所のコンロでつけたら、親戚のおばさんたちから怒られました。家族は誰もタバコを吸わないので、ライターもありません。コンロがダメなら、どこでお線香をつければいいのか?

(Yさん 国頭村20代女性)

A

アドバイスをくださった親戚のおばさんたちは、沖縄のしきたりにとっても詳しい方ですね。台所のコンロは便利ですから、お仏壇での焼香でもついつい利用しがちです。それはそれで、今どきの作法としてはあるかなとも思います。このような生活習慣の変化で儀式や法要の簡素化が進む一方で、

ウスコーのご法事の際の焼香は、お仏壇のロウソクからご焼香を行う方が望ましいとおっしゃる、ユタやウサギヤの先生方のお話を耳にしたことでもあります。

その考え方の根拠には、「ブチダン(仏壇)での焼香はグソーグトウ(後生事)、ヒヌカン(火之神)での焼香はウグワングトウ(御願事)」という沖縄の格言が示すとおり、同じように見えるご焼香でも、お仏壇とミールヒヌカガナシーメー(御火之神加那志前)というヒヌカンでは、そ

の意味も対象者もまったく異なるという考え方に起因するのです。

お仏壇は仏事、
ヒヌカンは神事

諸説ありますが、お仏壇は仏様やウヤファーフジのご先祖様を敬う場所になるという考えから、その方々に対するご焼香だとされています。一方、ヒヌカンは神事の一環で竈(かまど)の神様などを敬う場所になりますから、かまどの神様などに対するご焼香だと考えられています。そこから、お仏壇での焼香はロウソクを用い、ヒヌカンでの焼香はコンロ(かまど)からと、あえて区別する発想につながったのだといわれます。

悲智二徳論(ひちにとくろん)

お仏壇は仏事を行う場所なので仏式の考え方を尋ねてみますと、「燈明(ロウソク)と同意は、仏様のまことの智慧の心を表し、生花は仏様のいつくしみの慈悲の心を表す」と言い伝えられています。この考え方を「智慧と慈悲の二つの大切なもの」という意味で、学問的には「悲智二徳論」といいます。仏様の長所はたくさんあるといわれますが、ロウソクに関するものには、「何年、何十年、何百年もの暗闇でも、とも

しび(ロウソク)は一瞬で回り明るくし、心の迷いの暗闇までも照らし出す」との文獻があります。

そのような考え方から、沖縄では、お仏壇のロウソクは2個のイチチー(二対)を準備して、正面に向かって左側のロウソクは、葬列というお葬式のときの故人様をお墓へウンチケーする行列を案内するメーチョーチン(先頭の提灯)と敬い、正面向かって右側のロウソクは、同じ行列を後方から補助するクシヂョーチン(後方の提灯)と敬う、地域や家庭があります。この2つの提灯は、昔の沖縄の葬列が夕方や夜であったことから、野辺送りの会葬者の足元を明るく照らすのはもちろん、大切な故人様のトータビ(唐旅・古い沖縄のしきたりでは、中国への旅が成仏と重なるという考え方があります)も迷うことなく明るく照らし出すと

比喩されています。

仏壇にロウソクを

このような意味から、現代の沖縄でも、お仏壇での故人様のご供養のときは、ロウソクから火をつけることが望ましいとの考え方があります。また、地域や家庭によっては、この2つのロウソクはメーチョーチンとクシヂョーチンになりますから、ご焼香

の点火用として、もう1個、つまり3個目を準備することもあるようです。

沖縄の先人の方々が、着火する場所を区別しながら、お仏壇とヒヌカン、それぞれのしきたりを大切にしている意味は、私たちの想像を超えるジンブ(知恵)からきています。

このように、お仏壇のロウソクには、古からの伝統的な意味合いがあり、その考えを踏まえた沖縄固有の意味づけもあるといわれます。親戚のおばさんたちのありがたい貴重なアドバイスですから、今年の旧盆、ウンケーとウーカイには、お仏壇にロウソクを準備して、沖縄のしきたりの上級編にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

